

# 大 学 院 特 別 講 義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)

(医歯理工学先端研究特論)

**演題** 「福祉工学の魅力 - そこから生まれる脳科学とロボット-」

**演者** 伊福部 達先生 東京大学 名誉教授

**日時** 2012 年 7 月 4 日〔水曜日〕17 時～19 時

**場所** 7 号館 2 階 第 3 講義室

## 講演要旨

現在、日本は人口の超高齢化が深刻な問題となっており、それに伴う社会保障をどうするかが「産」「学」「官」の識者により盛んに議論されている。とくに「高齢者の生きがい」と「経済の発展」の両方を満たし、社会保障をマイナスではなくプラスに生かすための道筋を模索している。その対策の一つとして、障害が重い高齢者は在宅して自立できるように、障害が軽い高齢者は社会に出て活動できるようにするための福祉技術が注目されてきており、我々の専門である福祉工学もその一翼を担うことになった。ここでは、「見る」「聴く」「話す」を助ける福祉工学研究を紹介しながら、その研究から見てきた脳機能の潜在的な能力について述べ、その潜在機能をロボットに組み込むことにより、調和のある人間とロボットとの共生社会が生まれることを予測したい。

参考資料：伊福部達「福祉工学の挑戦」(中公新書、2004)

## プロフィール



### 【略歴】

伊福部 達 (いふくべ とおる, IFUKUBE Tohru)

東京大学名誉教授 (所属：高齢社会総合研究機構)

1971 年北海道大学大学院修士課程(電子工学)修了。北大・応用電気研究所・助手。助教授，米国スタンフォード大学・客員助教授を経て，1989 年北大・電子科学研究所・教授。2002 年東京大学先端科学技術研究センター・教授。2009 年より現職。専門は生体工学，福祉工学，音響工学。電子情報通信学会フェロー。北大名誉教授。東大名誉教授。この間、情報バリアフリー支援のための福祉工学の開拓と産業応用の研究に従事。著書に音声タイプライタの設計 (CQ 出版、1983)，音の福祉工学 (コロナ社、1997)，人工現実感の評価 (培風館、2001、編著)，福祉工学の挑戦 (中公新書、2004) など。

担当分野 顎顔面補綴学分野

担当者 隅田 由香 [内線 4757]